

本気になれば

世界は変わる！



< 目 次 >

1. 活動報告
2. セミナー案内
3. 連載・読み物
4. 各種ご連絡

1. 活動報告

スポーツケア活動事前研修会

1月28日(日) 13時～16時 場所:都師会会館
講師:永井明人先生(徳島陸上競技協会 医務主任 審判部副部長 全日本鍼灸マッサージ師会会員)
参加人数:10名
立川ハーフマラソン、中野シティーマラソン、墨田区テニスケア等に参加する予定者対象に救護活動における研修を行いました。
前半は、熱中症・心配停止・外傷等についてスライドを交えて座学で学び、後半はキネシオテープ、車椅子の操作方法等について実技研修も行いました。
スポーツ大会の危険性や救護の大切さ等を学び気が引き締まる思いでした。選手を無事に家に帰す為に今後のスポーツケア活動に生かして参ります。

東京都はり・きゅうあん摩マッサージ指圧師会
理事 今泉繭子

災害活動報告書

当会の今泉理事が DSAM の災害支援活動に参加された報告です。
☆活動日:2月24日(日)
活動場所:石川県珠洲市市役所(支援者支援)
同行者:新潟県の樽井先生(DSAM)
活動時間:13時～20時
23日(土)石川スポーツセンターにて資材の準備、打ち合わせ
24日(日)朝8時:樽井先生と合流、珠洲市へ出発。
12時頃市役所到着。挨拶、準備
13時:施術開始。
途中、災害救護班調整本部に挨拶に。
戻り次第再開し、20時まで述べ8名の施術を行った。
その後帰途に着き、雪や通行止めの影響もあり石川県庁に深夜0時に到着、解散した。
※市役所は日曜でお休みということもあり予約人数は少なかったが、被災のため市役所に寝泊まりしている方、被災者の対応で夜勤の方もいた。
市役所は一部電気が使えたが断水は続いており簡易トイレを暗闇で使っている状況だった。
珠洲市までの道は大きく崩れたりうねったりで通行

止めだらけであった。ペチャンコに崩れたり津波にさらわれた家屋が写真を撮るのをためらう程痛々しかった。

そんな状況の中でも市役所職員さんは明るく気丈に振る舞っていた。

カップラーメンばかりで血圧が高くなった、野菜が全く入らないので炊きだしカレーの福神漬けでも嬉しかった等のお話が印象的だった。

このボランティア活動をととても喜んで下さっていて、少しでも疲労回復の手助けができるのなら今後も続けていきたいと感じた。

☆活動日:2月24日(日)

活動場所:石川スポーツセンター(1・5次避難所)

活動時間:9時45分~16時

施術者:DSAM2名 一般参加3名 計5名

23日(土) 19時 DSAMの足立先生とスポーツセンター前日準備

24日(日) 8時半:スポーツセンター集合、開始準備

9時45分:受け付け、施術開始

16時:受け付け終了、片付け、保健師さん等へ報告

17時:解散

※スポセンでの活動も回数を重ね、鍼・マッサージを楽しみに待ってくださっているご利用者さんが受け付け開始前からまだかと訪ねてきてくれた。

予約はいっぱいだが受け付け1人、施術者が4人しかいないので休憩が取れない程忙しかった。

段ボールベッドが固くて背中が痛い、運動不足、冷え、浮腫など訴えは様々。

避難テントに訪問施術に行かせてもらった。一応のプライベート空間はあるものの「ここでは寝れない」というのが正直な感想。

音は全部漏れ、段ボールベッドも確かに固い。施術終了後手を合わせて感謝してくれる88歳の女性に涙が出そうだった。

介護を必要とする方が多いため行き先が決まらず今もなおスポセンで避難生活を送っている方々に一時でも癒しの時間を送って頂けるようこの活動を続けていきたい。



☆活動日:3月31日

活動場所:石川県珠洲市役所(支援者支援)

活動時間:10時~18時

同行者:樽井先生(DSAM・新潟県)

30日:スポセン前日準備

31日6時:石川県庁集合

8時40分:珠洲市役所到着、セッティング

10時:施術開始

18時:施術終了、DSAM活動一旦終了の為全ての荷物を撤収

22時:石川県庁到着、解散

※前回珠洲市に伺ってから約2ヶ月、のと里山道路はかなり修復工事が進みほとんど使えるようになっていた。だが、家屋の崩壊状況はほぼ変わっていなかった。水道もまだ完全ではない。

珠洲市役所の方々は前回と一見変わらないように見えたが、話してみると以前とは違うストレスで苦しんでおられた。

災害発生当時は助かった安心とこれからのことを考えがむしゃらにやっていたが、今はこの状況があまりに長く変わらない為「いつまで続くのか」といった不安やイライラが募っているとのこと。

また、自分達も被災者なのに市民から「何で炊き出しにならんでいるんだ」等と心ないことも言われることも。書き出したらきりが無いほどだ。

様々な支援が3月末でどんどん引き上げるみたいだと不安そうなお利用者さんに、私たちは4月から来ますよと伝えたらとても嬉しそうに笑って下さった。そんな方々の為にも今後もこの活動を続けていきたい。

東京都はり・きゅうあん摩マッサージ指圧師会
理事 今泉繭子



立川シティハーフマラソン第 27 回日本学生ハーフマラソン選手権併催活動報告

期日:平成 6 年 3 月 10 日(日)

場所:国営昭和記念公園 8 時 30 分～14 時 00 分

参加人数:10 名

トレーナー研修の一貫として都師会としては初めてのマラソンの救護活動を行いました。

実行委員会と話し合い、マラソン救護の中でも最も忙しいと言われるフィニッシュ地点での救護活動を担当させて頂くことになりました。

ハーフ、10キロ、マイル、親子マラソンの総勢約10,000名の選手がゴールする重要なポイントです。

特に多かった対応として、歩けなくなっている選手の搬送、テーピング、脚の痙攣への対処等がありました。気温が良かったこともあり大きな事故もなく、例年は何件かある救急搬送も今年はありませんでした。

主宰の立川市役所スポーツ振興課の担当者さんから「安心して任せることができた」「お陰さまで無事に終わることができた」等のお言葉を頂きました。

協力して下さったトレーナーの先生方、はるばる徳島県や埼玉県からお越し下さった先生方、本当にありがとうございました。



東京都はり・きゅうあん摩マッサージ指圧師会
理事 今泉繭子

中野ランニングフェスタ2024活動報告書

日時 令和 6 年 3 月 10 日(日)9:20～16:00

会場 中野四季の森公園及び周辺道路

主催 中野ランニングフェスタ実行委員会
〈東京商工会議所中野支部〉

参加者)

松村和輝先生(中野区鍼灸マッサージ師会会長)

徐旻荻先生(東京都師会)・田中汐里先生(中野区鍼灸マッサージ師会)・北村博一(東京都師会)

他 1 名 ※体調不良のため早退

目的)

中野ランニングフェスタの参加者(ランナー)に対しマッサージケアを行い、疲労回復を目的とし、参加者に競技後のマッサージの有効性を認知してもらう。

内容)

施術ブースを開設、ベッド 3 台設置してマッサージブースの横に簡易的ではあるがポッチャが出来るレクレーション場を開設。受付とレクレーション場を松村先生及び松村先生のお子様方が担当、残り 4 名で 3 つのベッドを持ち回りで担当。施術時間は 1 人 15 分。

結果)

施術人数 25 名

(※男女比率不明、年齢 4 歳から 80 代まで。)

施術後の感想概ね良好。(※データ解析中)

※脱水の疑い 1 名 水分補給で対処。

所感)

フェスタだけあり老若男女様々な方が来訪されました。また、ランナー及び見学者も半々のような気がします。競技終了後はライブがあり、それを目的に来場した方が時間までマッサージを受けに来ることもあり、結果的に来場者が集中したことにより楽しい時間を過ごすことが出来ました。

東京都はり・きゅうあん摩マッサージ指圧師会

副会長 視覚障害局 北村博一



令和6年度第1回松塾報告



日時 2024年4月6日
午前 10時～12時半
テーマ『素問』宝命全形論篇の
「治神」解釈と臨床像について

講師・松田博公先生（本会顧問）

松塾は、ひさしぶりに『黄帝内経』の読解を行いました。『素問』宝命全形論は「治神」こそ、鍼灸師にとって最も大事な眼目だと宣言しています。

しかし、それが何を指すのか、定論はないのです。そこで、今回から3回にわたって、唐代の楊上善、王冰の注釈から現代の中医学まで40の文献を考察し、どれが正しい解釈かを探り、治療家の生き方にとって「治神」の持つ大事な意味を考えようとなりました。

今回は、宝命全形論の「治神」の解釈が、唐初の楊上善と約100年後の王冰において異なることが示されました。楊上善は、「治神」とは治療家が自らの「神（生命エネルギー）」を日常的に養い充実させることであり、それをを行い健康になった治療家のみが患者に鍼をする資格があると説いています。

王冰は、「治神」とは臨床現場で自らの「神（生命エネルギー）」を集中することとしています。王冰の解釈が現代の「臨床現場で精神（意識）を集中する」という、間違った「治神」解釈の起源になったことを説明し、次回に繋いでいます。

この講義で、『黄帝内経』の解釈は様々で、現代はもちろん、古い時代の注釈者でも古代思想を理解できているとは限らないことが分かります。今回のような研究は、これまで中国にも日本にもなかったのです。

アーカイブ動画が YouTube 都師会チャンネルにアッ

プされています。ご関心のある方は、どうぞご覧下さい。

株式会社セイリン主催企業説明会参加報告書

日時 令和6年3月23日(土)13:00~16:30

会場 大田区産業プラザ p i o

住所 〒144-0035 大田区南鎌田 1-20-20

主催 セイリン株式会社

参加者)

成田卓志 松永公子 北村博一

埼玉県鍼灸マッサージ師会 高野広行

小久保貴一

群馬県鍼灸マッサージ師会 狩野裕治

千葉県鍼灸マッサージ師会 西村亮輔

目的)

今回業団組織強化の一環として参加される学生さん及び既卒一年目の方に業団のPRと入会の案内を行う。

内容)

参加企業及び施術所が説明会ブースを開設、東京都師会も業団説明ブースと実技ブースを開設。

予めネットで応募した就職希望者約60名が首都圏から来場。今回は公益社団全日本鍼灸マッサージ師会もPRするとのことで関東ブロックから埼玉県師会、千葉県師会、群馬県師会の先生方もご参加いただきました。また各県師は入会案内リーフレットを準備、東京都師会は講習会や実技動画のQRコードを印刷したチラシを来場者に配布。

結果)

来場者4名（※実技希望者1名）

所感)

今回の参加目的は全日本鍼灸マッサージ師会、その窓口として東京都はり・きゅうあん摩マッサージ指圧師会を紹介することでした。来訪された方は、業団に興味があるというより『ここは何だろう』という感覚と思われます。内容は鍼の打ち方や進路相談など様々で求職においては個人レベルで様々な悩みを抱えていることがわかりました。

当初、求職の場で業団紹介は・・・と個人的に思い

ましたが、あらゆる場所で業団名を視野に入れることが大切であり、それにより彼らが将来自らの業を仕事以外に役立てたいと考えた時、つまり災害やスポーツ現場で活躍したいと考えた時に入会を促せればと考えています。



東京都はり・きゅうあん摩マッサージ指圧師会
視覚障害局 北村博一

墨田区民体育祭「庭球大会」鍼・灸・マッサージ体験施術ボランティア録

日時：2024 5月 12,19,26(日)

主催:(公社)東京都はり・きゅう・あん摩マッサージ指圧師会、墨田区はり・灸・あん摩マッサージ指圧師会

場所:墨田区錦糸町テニスコート(墨田区錦糸 4-15-1)

テニスコート脇通路

*5/12(日)

参加者 坂本大輔(墨師会)松永公子(都師会、墨師会)

種目 8:00-女子ダブルス 11:00-男子シングルス

15:00-男子シングルス

施術部位	頸	肩	腰	膝	肘	脛脛
試合前	5	11	6	6	6	1
後	10人	女 12人	男 14人	計26人		
見学	4人					

*5/19(日) 参加者 下條隆宏(墨師会、東鍼会)10:00-18:30 松永公子 7:30-10:00 13:30-18:30

種目 8:00-男子ダブルス 65歳以上 10:30-女子ダブルス 13:30-男子ダブルス 17:30-男子ダブルス

施術部位	頸	肩	腰	膝	下肢
試合前	3	7	10	3	2
後	3人	女 11人	男 7人	計18人	
受付	5人				

*5/26(日)参加者 水野美和(都師会)7:30-13:00 南周

宏 10:00-16:00(都師会)湯澤俊紀(墨師会)

松永公子 7:30-8:45 13:30-18:30

種目 8:00-女子シングルス 13:00-男子シングルス

15:30-男子ダブルス

施術部位	頸	肩	腰	膝	下肢
試合前	5	4	11	1	3
後	4人	女 7人	男 7人	計14人	

<反省・課題>

- ・ベッドが1台のため、施術者の人数調整必要。
- ・椅子を使用するなど工夫が必要。

次回は繋鍼、小児鍼持参。

26日は肉フェスと重なり大音響に悩まされたので次回は確認。

東京都はり・きゅう・あん摩マッサージ指圧師会 理事兼 墨田区はり・きゅう・あん摩マッサージ指圧師会 会長 松永公子



令和5年度定時総会報告

◆開催日時

令和6年5月25日(土曜日) 午前10時~午前11時

◆開催場所

本会会館3階会議室

◆報告事項

報告事項1 令和5年度(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)事業報告の件

報告事項2 療養費の件

報告事項3 災害支援の件

◆決議事項

第1号議案 令和5年度(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)貸借対照表、損益計算書(正味財産増減計算書)、付属明細及び財産目録承認の件
議事の経過の概要及び議決の結果)

本会は出席者14名、委任状提出者100名、合計114名(60%)で定足数(会員数190名×1/2=95名超)を満たしており有効に成立

(報告事項1)

1 普及啓発活動

講習会講演会①初学者のための勉強会②中国医学③松塾④その他、「ホームページ、機関紙による情報提供」について。

2 向上発展事業

「東京都委託施術者学術講習会」について。

3 共益事業

公益社団法人全日本鍼灸マッサージ師会の諸手続に関する窓口業務、往田和章先生のセミナーについて。

4 総会・理事会開催日について

5 会員の状況について

(報告事項2)

療養費の件について

(報告事項3)

災害支援の件について

(2)決議事項

第1号議案令和元年度貸借対照表、損益計算書(正味財産増減計算書)、付属明細書及び財産目録承認の件について賛否を諮り、全員一致で承認された。

◆各講習会開催数の訂正

①初学者のための勉強会

奥住知子先生 全5回→全6回

鈴木春子先生 全4回→全5回

戸ヶ崎正男先生 全9回→全10回

石山祐司先生 全5回→全7回

②中国医学

角屋明彦先生の講座 11回→12回

以上をもって議事の全部の審議及び報告を終了。
11時に閉会を宣言し、解散した。



2. セミナーのご案内

令和6年度 都師会主催 スキルアップ° セミナー

都師会より本年度のスキルアップセミナーのご案内です。

<テーマ>

『鍼灸で治療効果を上げるための触診と遠隔治療』

<講師>形井秀一先生

<スケジュール>

第1回 9/1(日) 触診の基礎と実際

第2回 10/6(日) 遠隔治療の基礎と実際

第3回 11/3(日) 背部・腰部の触診と遠隔治療

第4回 12/1(日) 臀部・大腿部・膝部の触診と遠隔治療

第5回 1/5(日) 頸部・肩部の触診と遠隔治療

第6回 2/2(日) 腹部の触診と遠隔治療

<講座時間>

各回 10時~13時(会場準備にご協力頂きたく、開始15分前にお越し下さい)

<募集人数>10名

<募集締切>令和6年8月10日(土)

※定員になり次第締切

※全6回の講義全てに出席できる方に限ります

<講座の進め方>

前半/講義、後半/実技(実技は受講者同士で行います)

※講座については基礎から臨床の一貫した流れで行います。

<参加費(全6回分)>

会 員:31,500 円, 一 般:43,500 円

会員学生:19,500 円, 一般学生:31,500 円

※学生は3年生以上を優先させて頂きます

※この機会に入会される場合、会費は入会月からの月割りになり、受講料も会員の料金になります。

<持ち物>

薄手のハ` スタオル2枚。

※実技で` 使うはり、灸用具代金(1,500 円)は参加費に含まれています

<服 装>

腰背部、膝肘から先が` 出やすいゆったりとした服装

<会 場>

当会会館3階会議室

東京都千代田区神田松下町 37-4

<問合せ>

都師会事務局 03-3252-8811(月火木金 9:30-

16:00) 又は 090-4067-5983(松永)

<申込方法>

- ① 氏名 ②住所 ③電話番号 ④出身校又は在学校(学年) ⑤あはき免許番号 ⑥会員,非会員,入会希望 ⑦応募動機(400 字程度)を記入の上メールで` 申込み下さい✉ toshikai8811@ybb.ne.jp

<受講料振込先>

三菱 UFJ 銀行・神田駅前支店 (普通) 0951679 公益社団法人 東京都はり・きゅう・あん摩マッサージ` 指圧師会 (コウエキシャダ` ンハウジ` ントウキョウトハリキュウアンママッサージ` シアツシカイ)



～講師紹介～

形井秀一

医学博士、世界鍼灸学会連合会副会長、全日本鍼灸学会参与、社会鍼灸学研究会代表、日本伝統鍼灸学会相談役

<略歴>

1975 年 東京農工大学卒業

1979 年 東洋鍼灸専門学校卒業

1981 年 筑波大学理療科教員養成施設卒業

2017 年 筑波技術大学名誉教授

<主な執筆・監修の本>

「からだの声を聴く」医道の日本社、横須賀,1997, 「治療家の手の作り方」六然社,東京,2001,「ツボ単」NTS、東京,2011,「カラーアトラス取穴法」第3版,医歯薬出版,東京,2012.「イラストと写真で学ぶ逆子の鍼灸治療」第2版,医歯薬出版、東京、2017.「イラストと写真で学ぶむち打ち症の鍼灸治療」医歯薬出版、東京、2019,

2. 連載・読み物

東京都鍼灸あん摩マッサージ指圧会の皆様へ



鍼灸マッサージの営業について

私は治療院を持っているがお客様を待つことはしていない。全て訪問鍼灸マッサージである。

理由は時間に無駄がない。リズムある1日を過ごせるからである。例えば、朝9:00～夜6:00迄、予定を月～土迄きちんと入れられる。無駄なく移動できる。

最初の頃はさらに大手の有料老人ホームと手を組んで、1箇所でも多数の利用者に施術した。個人宅とホームで年間600万の売り上げは得られた。

最大のセールストークは「私もケアマネの仕事をしています。」というフレーズ。この言葉でケアマネの方々に営業をして廻り、とても有効だった。単なる鍼灸マッサージではない処に親しみを覚えてくれた。やはり資格というものは「力になる」と痛感した。しかし、だんだんと訪問マッサージ業も飽和状態となると、お客様は減ってきた。

それでもスタッフの一人が認知症の方に回想法をとり入れて、寝たきりの方が歩けるようになった事は介護職の方を唸らす事ができた。

骨折すると寝たきりになるのに、岡野ケアは歩けるようにしてくれたと家族もヘルパー会社も大変驚かれた。

それでもスタッフの一人が認知症の方に回想法をとり入れて、寝たきりの方が歩けるようになった事は介護職の方を唸らす事ができた。

骨折すると寝たきりになるのに、岡野ケアは歩けるようにしてくれたと家族もヘルパー会社も大変驚かれた。

有料ではあるが、更に誤嚥の予防もとり入れ、今日、家族にも大変喜ばれている。

東京都はり・きゅう・あん摩マッサージ指圧師会
理事 岡野信久

鍼灸マンダラー—東洋思想と鍼灸

第6回 基本的な治療の流れ

片桐正喜

●はじめに

これまで5回にわたって、手作りや診断、ドーゼについて説明してきましたが、今回から実際の治療法について、少しずつ書かせていただきたいと思います。とはいえ、私が師匠（故・坂井秀雄先生）から教わった治療法は、「原則的な流れ」こそ存在しますが、その本質において固定的な「形」が存在しません。あくまで指先の感覚を通しての、いわば患者の“体との対話”によって進められていくものであり、ゆえに患者一人一人に応じた無数の治療法が存在することになります。これは言い方を変えれば、固定的なパターンだけでは患者をきちんと治せないということです。

ですので、私が治療法について書く内容は、あくまで「原則」あるいは「臨床事例」に過ぎず、実際の治療は臨機応変に行われるということを念頭に置きつつお読みいただけたらと思います。

●治療の全体の流れ

私が師匠から教わった治療の基本的な流れは、まずうつ伏せで背部の治療を行ってから、仰向けで腹部を中心とした治療を行うというものです。師匠は、「最初から“うつ伏せ”でやる鍼灸院なんて滅多にないよ」

とおっしゃっていました。なぜなら、多くの治療院では、治療のはじめに脈診を行うからです。

（しかし、師匠は脈の変化にはあまり重きを置いておらず、脈診は行っていませんでした）

背部を先に治療する理由については、「治療を続けるうちに、ある時治療法が分かったんだよ。治療はうつ伏せで始める。うつ伏せから入ると、最初に痛いところ（腰痛等）から治療できるでしょ？

それだけじゃない。結局、内臓の病気でも何でも、

病（を治すポイント）は、膀胱経の背部俞穴なんだよ。俞穴をいかに治療するか。

だから、まず背中に強い治療をして、そして温める。その後で仰向けにすると、仰向けの治療中に、はじめにやった背中の中の治療がじんわりと効いて、緩んでくるんだ」

とおっしゃっていました。

●指圧→鍼→指圧

うつ伏せと仰向けの治療のそれぞれで、刺鍼の前には必ず指圧を行います。師匠は、それこそ口癖のように、

「診断、即治療”なんだ」

とおっしゃっていましたが、これは指圧を通して患者の体の状態を把握する（すなわち指圧＝触診）と同時に、その指圧が治療にもなるのだということです。

うつ伏せでは首から足までの体全体を、仰向けでは大腿から下腿にかけて指圧を行います（腹部は指圧を行わず、サッと撫でるようにして触診します）。この指圧により、ある程度緊張がほぐれ、皮膚や筋を柔らかくすることができるので、刺鍼に際しては前揉撫を行いません。鍼を打ち終えたら、10-15分程度置鍼し、腰部（症状によっては膝なども）を温めます。

置鍼中、気をつけるべきこととして「ドーゼの確認」があります。特に初診の患者に対しては、「鍼が重くありませんか？」「だるさを感じたりしませんか？」ということをごまめに確認し、特に「だるい」と言ったら完全にドーゼオーバーなので、すぐに抜鍼します。

（※ドーゼについては、第4回・第5回参照）

抜鍼後は、（後揉撫を兼ねて）再びよく指圧しますが、特に抜鍼後の指圧は、刺鍼前の状態と比較して、どのように変化したかを必ず確認しながら行います。

師匠はやはり口癖のように、「鍼を打つ前と、抜いた後の変化を、指圧の時に必ず確かめろ」

とおっしゃっていましたが、これは治療が成功しているかどうかを見極めるために重要です。刺激は強すぎるとドーゼオーバーを起こしますが、弱すぎると十分に治療効果が現れません。抜鍼後の指圧で、最初と比べ変化があまり見られない場合で、かつドーゼオーバーの兆候が全く見られない場合は、刺激量の不足が考えられるわけです。このような場合、師匠はその患者

に対し、もう一度同じ治療をやり直したこともあるそうです。

●パラファンゴパック

置鍼中、しっかりと患部を温めると、治療効果が何倍も違ってきます。「鍼刺激と遠赤外線の併用」などに関する研究論文などもあるようですが、実際、置鍼中に患部をしっかりと温めると、患者の方から「楽になった」「痛みがだいぶ少なくなった」「気持ちよかった」という声が聞かれます。

しかし、私は専門学校時代の時代、この「置鍼中に温める」ことの重要性について、習った記憶がほとんどありません（灸頭鍼の実技で少し触れられた程度でしょうか）。学校教育で強調されていないためか、過去に私が勤務したり見学に行ったりした治療院の中には、置鍼中に患部をきちんと温めているところもありましたが、そのようなことをほとんどしない治療院もありました（間接灸、台座灸を少し用いる程度でしょうか……）。「置鍼中に温める」ことの重要性があまり知られていないのは、非常に残念なことです。

では、置鍼中に患部を温める“道具”としては、何を用了らよいのでしょうか。治療院で一般的に用いられる器具や施術法には、赤外線治療機や灸頭鍼などが代表的なものとして挙げられるでしょう。

さて今回は、他の治療院ではほぼ使われていないであろう、師匠が試行錯誤の末たどり着いた“秘伝の治療器具”について一つ書いておきたいと思います。

師匠は、置鍼中の患部の温め方については長年研究をされており、昔はコウケントー（光線治療機）などを用いられていたこともあったのですが、最終的に行き着いたのがパラファンゴパックという、温泉泥（ファンゴ）とパラフィンの混合物が封入されたホットパックでした。これは専用の温蔵庫で加温して用います。

実際の施術では、まず鍼を斜刺で刺入し、上からタオルを掛け、その上に、合成繊維のカバーに入れたパラファンゴパックを置き、置鍼中はずっと置いたままにします。これは腰痛、膝痛の患者の方には必ず用いますが、腰部に主訴がない場合（※）でも、下部の俞穴や腎臓などの後腹壁臓器を温めることを目的として、腰はほぼ必ず加温します。（※師匠の治療は「全身治療」が原則であり、主訴がなくても腰部には必ず鍼を打ちます）

なお、パラファンゴパックは、原則的に体の上部には用いません。これは、のぼせてしまう危険があるためです。また、低温火傷の危険があるので、時々「熱すぎないですか？」という確認をします。

師匠はパラファンゴパックについて、何度となく「いろいろ試した中で、これ以上のものはなかった」とおっしゃっていました。なぜ、パラファンゴパックが他の器具より優れているのか——これについては、高温の状態でも長時間加温できること、取り扱いが簡易であること（ただし、きちんと“使える”ようになるためには相応の練習が必要）、そして何より、赤外線や灸頭鍼が輻射熱であるのに対し、パラファンゴパックは伝導熱が主であること——などが挙げられるのではないかと思います。

（パラファンゴパックは、赤外線治療機や灸頭鍼とは熱の伝わる感覚が全く違います。これは実際に体験するとよく分かります）

●患者は自然そのもの

今回は、師匠から受け継いだ治療法の基本的流れ、そのごく一部について書かせていただきましたが、やはり技術論について書くと「形」に目が行ってしまうため、どうしても原則が見えにくくなってしまいます。そこで最後に、冒頭でも少し触れた「治療には決まった形がない」ということについて、師匠の言葉を記しておきたいと思います。

「治療が終わって、患者がよくならなければそれでいい。だから治療のやり方は無限にあるし、無限の考え方があっていい。人間は自然のもので、自然には捉えどころがない。自然を相手にするのだから、“決まったやり方”があると考えの方が、そもそもおかしいんだよ。だから、『これはこうだよ』と言うことはできても、それを“決まったやり方”として、すべての患者に当てはめようとしたら、うまくいかないのは当然なんだ」

これと関係して、「学ぶ」ということについて、師匠は専門学校の時代の話をしてくださったこともありました。

「専門学校の先生一人一人が、まるっきり反対のことを平気で言ってたけれども、それはすべて自分の“実践”と“経験”の中で言っていることだから、それでいいんだよ。それについて、先生同士も絶対に互いを批判したりしなかった。『あの先生の言っていることはウ

ソだよ、デタラメだよ』とか、そういう言い方はしない。

ただ、『痛い鍼をやってはいけない』『深く刺してはいけない』と言う先生もいれば、『2、3人くらい救急車で運ばれるくらいの鍼を打たないと上手くなれないよ』（※これは極論です）と言う先生もいた。（学問的な知識ではなく）“その先生の培ってきたもの”を学ぶことが大切なんだ。」

そして、師匠が最も重視されていたのは、治療家が「人間性を磨く」ということでした。

「石野信安先生は“鍼、即人間性”と言っていた。鍼を見ればその人の人間性が分かるし、その人の人間性が鍼に出る。だから人間性を磨きなさい、と」

●治療を体験したい方は

今回書かせていただいたような治療の具体的な内容については、なかなか紙面だけで伝えられるものではありません。

師匠はしばしば「治療を受けるのも、大切な勉強だ」とおっしゃっていましたが、実際の治療を体験してみたいという方は、私の勤務する治療院の連絡先を記しておきますので、お気軽にご連絡ください。

弘明堂鍼灸治療院

住所：東京都練馬区関町北2丁目27-11 もりくま17ビル3F



電話：03-3928-6932

（※完全予約制で、治療は実費となります。受付にて勉強のために治療を受けたい旨お伝え下さい。

なお、スタッフの人員の関係で見学の対応はできません）

3. 各種ご連絡

当会上部団体全鍼の公式 LINE のご案内

当会上部団体の全鍼の公式 LINE 立ち上がりました。みなさま「友達登録」をよろしくお願ひします。LINE の[ホーム]ボタン⇒右上[友だち追加]ボタン⇒検索ボタン⇒ID を選び⇒検索内容欄に、@726dytg を入力或いはコピーし、マークで検索すると追加できます。

(公社) 全日本鍼灸マッサージ師会
LINE公式アカウント「友だち募集中」
ID : @726dytg
URL : <https://lin.ee/jzAXASO>



都師会 メーリングリスト(R6年前半配信分)

メーリス通信(会員向け)は、R6年1月～7月前半の間計12回(ml:049~060)配信しました。

まだ登録されていない方もいるので、療養費料金改定に関する配信内容を報告いたします。

メーリングリストに加入されたい方はメールで事務局までお問い合わせください。

【令和6年度療養費改定について】

都師会 保険担当よりお知らせです。

R6年度療養費改定について、6月付と10月付の2段階改定部分と改定前後の料金など一覧表は下記リンク先或いはQRコードでご覧いただけます。

<https://drive.google.com/file/d/1gEDsGx-AVolVzyPg6-MDD2VmgcY2OTwS/view?usp=sharing>



公益社団法人

東京都はりきゅうあん摩マッサージ指圧師会

発行者 成田 卓志

〒101-0042

東京都千代田区神田東松下町37-4

TEL 03-3252-8811

FAX 03-3252-8813